『桜樹』の序

岸田國士

青空文庫

日本人のすべてが、いま無意識にもとめてゐるものがある。いろいろな方面にそれがある。例へば小説にしても、今までのどんなものよりも身近な、それでゐて、おほらかなものを、それとははつきり言へないけれども、みんな心のなかで探してゐるやうに思ふ。

作家はむろんそれに気づいてゐる。しかし、書くといふことはひとつの習慣であるから、思ひきつて自分の殻を破らなければ、新しい方向に進むことはできない。準備はもうできてゐる。機会が与へられゝばいゝのである。

たまたま、私が翼賛会文化部の仕事をしてゐる関係で、今度陣容を建て直した翼賛出版協会から「健全で面白い小説」の出版について企画の相談をうけた。

私の頭には、すぐ数名の中堅作家の名が浮び、その才能、思想、気魄の点で、私の考へてゐる「日本人全体を対象とするやうな小説」の執筆の依頼をしたらといふ事が即座に決定したのである。

同僚の上泉君とも人選について慎重に打合せをした。

みんな快く引受けてくださつた。

国民文学といふやうな名称をわざわざつけなくてもいゝ。つまり、ある一定の読者——知識層とか大衆とか、或はまた文学に縁のあるものとか、忙しくて時間がないものとか、婦人とか子供とか——とにかく、特別な条件のついた読者の範囲を頭において、これまでの小説は書か

れてゐたのである。さういふものもあつていゝけれど、さうでないものがなければならぬ。これこそ、私たちが、いま、文学にもとめてゐるものではないかと思ふ。そして、これは作家にとつて最も困難な、しかし命をかけても惜しくない道である。

出版者側のかなり非打算的な協力に信頼し、作家諸氏の熱意と努力とを私は感謝をもつて見まもつてゐる。

福田清人氏の「桜樹」は、かくしてこゝに脱稿をみたわけである。

これ以上、私はなにも云ふ必要はない。ひろく読まれることを希ふばかりである。

昭和十七年九月一日

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集26」岩波書店
　1991（平成3）年10月8日発行
底本の親本：「桜樹」翼賛出版協会
　1942（昭和17）年10月20日発行
初出：「桜樹」翼賛出版協会
　1942（昭和17）年10月20日発行
入力：tatsuki
校正：門田裕志
2010年3月1日作成
2016年4月14日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

『桜樹』の序

岸田國士

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/